

若い教師のために⑩

準備力

学力研常任委員 深沢 英雄

一、久保さんの言う準備力とは

四月二二日に久保さんの出版記念会が開催されました。「主体的・対話的な学びを深める 予習展開による国語科授業づくり」という本です。

まえがきにこうあります。『社会で活躍する有能な人とはどんな人なのか。これは難しい問題ですが、一つだけはっきりとしていることがあります。それは有能な人は必ず準備をして仕事に臨んでいるということです。「予習」をすること、「予習」して仕事に臨むことこそ、有能さの証なのです。しかし、社会人になったからといって、すぐに予習のできる人間になれるわけではありません。私は、やはり小学校のときから予習し、しっかりと準備をして事に臨む子を育てるべきだと考えています。』

二、ノート指導は授業準備

久保さんは

『問一をここに書いて、答えをここに書き、一行空けさせる。問二をここに書き、子どもたちの意見が分かれるだろうから、それぞれの意見を板書して議論してみよう……。こんなふうには授業を想起しながら、子どもと同じノートに板書計画を書いていきます。こうすると、単に教材研究に留まらず、授業準備、板書計画まで出来上がり、自信をもって授業に臨めるのです。』
「板書計画のない教材研究は意味がない。板書計画ができて初めて授業準備が完了だ」と私はよく言うのです。』

私は、仕事として、初任者の授業を毎週1回参観にいきますが、指導案とともに必ず板書計画を出すように要求しています。四月になったばかりの先生なので、ノート

指導までにはきちんとしてきていませんが、徐々にできていけるように指導していきたいと思っています。

去年度の新任で、今、二年目の中学校の先生は、空き教室で、授業の板書と同じものを書いて、写真にとり、それを自分の授業ノートに張り付けて授業に臨んでいるそうです。

自分なりの工夫で、「授業準備」をしています。

三、「準備」は時間管理

「時間がなくて準備ができませんでした。」と言いつける人がいます。

若い時に、「大事なことを頼むには、忙しい人に頼みなさい。」とある先生に言われたことがあります。若い私は「あれっ」と思いました。今は、わかります。忙しい先生は、時間管理がうまく、単位時間あたりの仕事量が多いので、すぐに仕事ができるのです。

時間管理のコツは、先を見通して、きちんとした計画を立てることです。そうすると五分十分のすきまの時間にこの仕事をしておこうとなります。短い時間ですが、塵

も積もれば山となるのです。やることが明確になつていゝからすきま時間を有効に使えるのです。

職員会議などで、次までに準備しないと
いけない仕事が多すぎたときには、できるかぎりすぐに準備にとりかかったほうが効率がいいのです。少したつと、「なんだっけな」と仕事にうつるまでに頭を回転するのに時間をとつてしまいます。100%でなくていいのです。六割ぐらい手がけているとあとの準備は簡単です。

四、準備の優先順位

「あれも準備しないとといけない。これも準備しないといけない。」と並列で仕事を捉えると進んでいきません。明日の授業までに絶対に準備しておかないといけないことが、三つあるとします。三つの中の順番を決めて、取り組みことで、大事な点を取りこぼすことがなくなります。「こんなこと準備しておけばよかったな。」という後悔を減らしていかないといいけません。

教師には授業の準備だけでなく、色々な仕事があります。

学校で自分が与えられた仕事の優先も考

えるのです。

まずは、クラスの実務や事務は当然です。親や子どもに影響のおよぶことは最優先課題です。

また、学年の仕事を任せられたときは、それを優先にしないといけません。学年・学校の仕事の準備をおろそかにすると、たくさんの先生に迷惑をかけるし、滞ると信用を失っていきます。どうしても準備ができないときは、他の先生に相談することが一番です。期限通りにやるのが一番ですが、どうしてもできないときは、直前になつていうのではなく、あらかじめ、できないことを伝えるということが重要です。

五、準備は確認と点検

授業でパソコンとプロジェクターを使うとすると、必ず前日に、本番の授業通りに動かしてみないといけません。昨日まで動いていたから、大丈夫と思つていると急に調子が悪くなる場合があります。線が短い、延長コードはどこだろうとあわててしまいます。準備をすることで確認と点検できま

す。
大リーガーのイチローの準備の仕方はこ

うです。

「ハイレベルのスピードでプレイするために、たえず体と心の準備をしています。自分にとつていちばん大切なことは、試合前に完璧な準備をすることです。」「ようするに『準備』というのは、言い訳の材料となり得るものすべてのことをこなしていくということですね。」「できる限りの準備をしても、次の一本が打てる保証がない。だから野球は楽しい。」

六、未来の自分への準備

日々の準備の大切さを述べてきました。若い皆さんには、目の前の準備を怠らないは当然です。でも、それだけだと、日々の生活に埋没してしまいます。明日の授業には役立たないが、こんな実践をしてみたいこんな先生になりたいという思いを持つて、「自分の未来への準備」も進めてほしいと思います。

そのためには、本を読む、研究会に足を運ぶなどたえず吸収する姿勢を忘れずにいてほしいです。今年度も「先生のための学校」が始まります。皆さんの参加をお待ちしています。